



《令和7年度》 事業報告及び決算



市町村社協合併から20年の節目を迎えるなか、本会としては、変化を続ける地域社会の課題や社会情勢を踏まえた多様な活動を推進しました。

法人運営では、新たな役員及び評議員の定数による組織運営をスタートし、市交付金をはじめとする財源確保や法人運営の安定と持続性を確保するための支所及び介護事業の再編検討を開始しました。

地域福祉事業では、新規受託事業としてひきこもり地域支援センターの受託運営を開始し、重点事業として取り組みました。センターの設置に伴い、市民周知や支援者とのネットワークづくりなど柔軟で実効的な機能の確立に努めました。

また、企業連携の充実を図り、フードロス削減事業や健康麻雀交流会事業をはじめとする様々な事業において民間企業と協働しながら、今後の事業展開につながる関係構築にも努めました。

在宅支援事業は、介護保険事業において2期連続となる黒字（地域密着型通所介護事業を除く。）を確保しつつ、前年度を上回る増収増益を実現しました。

また、需要が高まる権利擁護事業について、市民への普及啓発を目的とした権利擁護セミナーを新規開催するとともに日常生活自立支援事業及び法人後見事業による支援を推進しました。

《主な取組と事業》

【法人運営】

○法人運営に係る取組

- ・法人の運営拠点のあり方を検討するための会議（2回）
- ・週休3日制の試行導入と検証（事務職 29人中 9人利用）

【地域福祉事業】

○ひきこもり地域支援センター事業（新規）

市受託事業として、ひきこもり状態にある本人やその家族等からの相談を受け、個々の状況に応じた支援等を実施（相談受付 1,854件、居場所づくり 748回、当事者会 184人、家族会 28人）

○健康麻雀交流会事業

ギャンブル性を排除した健康麻雀交流会を実施し、高齢者の交流機会等を創出（開催日数 97日、参加者数 2,570人）

○だれでも広場事業

多世代の交流と住民の居場所づくりを目的とした屋内広場を運営し、全国から集まる寄付物品を活用した様々なイベントの開催やひきこもり当事者、不登校児童生徒など多様な人たちの居場所として機能（314日開所、年間来場者 29,978人）

○ささえあい買い物事業 あいのり

高齢者がタクシーに相乗りして買い物に行く支援を通じ、フレイル予防や高齢者同士の交流を促進（利用者数 831人）

○つながるフェスティバルの開催

人と人、人と社会等のつながりづくりを目的に学生、企業、ボランティアが一体となり、交流イベントを実施（協力団体 200団体、来場者約 5,000人）

【在宅支援事業】

○権利擁護普及・啓発事業（新規）

住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けることができるように市民を対象とした権利擁護セミナーを開催（実施回数 3回、参加者数 52人）

- 1 会務の運営
- 2 地域福祉活動の推進
- 3 ふれあいのまちづくり事業
- 4 共同募金事業、
歳末たすけあい運動の推進及び協力
- 5 受託事業の実施（福祉事業）
- 6 受託事業の実施
（指定管理施設の経営）
- 7 介護保険事業等の経営
- 8 善意銀行の運営
- 9 福祉資金貸付事業
- 10 役職員の資質向上
- 11 福祉情報の発信

